

編 集 後 記

昨年3月11日の東日本大震災は千年に1度、未曾有の大災害でありました。被災地においては、1万5千人に及ぶ尊い生命が失われ、震災後の現在においても生活再建の道筋が見えない状況にあります。

国は、わが国の威信をかけ、東北の復興に立ち向かっているところですが、失った科学技術の信頼を取り戻すべく、社会基盤の再生にはわが国の英知と底力を結集する必要があります。わが国には「備えあれば憂いなし」という諺があります。東北の復興は先人の言い伝え通り、時間を基軸とした「備え」が重要であると言えます。

こうした状況の中、弊社はお陰様で多く関係者の皆様のご協力とご支援により、来年は再構築20年の節目を迎えることになりました。企業として、この節目を契機にさらなる発展と飛躍をめざすばかりではなく、弊社の技術力とノウハウが「世のため、人のため」になることこそが企業としての社会的使命と役割であり、弊社社員一同は心新たに日々奮励努力する所存でございます。関係者の皆様方におかれましては、引き続きのご指導とご支援をお願いする次第です。

さて、弊社「NOTE KAIHATSU KOEI」は、本年度で第20号を発刊する運びとなりましたが、発注機関関係者様のご了解を得た上で、業務成果を一部活用させていただいております。関係者の皆様をはじめ、多くの皆様のお目に触れることができますならば、編集者にとっては望外な喜びであります。多謝。

(社内技術士会会長 野々村清隆)